

## 鹿児島の動物⑩

## アマミノクロウサギ

脊椎動物担当 中間 弘

アマミノクロウサギ（ウサギ科）は、奄美大島と徳之島だけに生息する奄美諸島固有種で、全長は40～50cm、体重は2kgほどです。背面は全体に暗褐色で腹面はやや淡い灰褐色の荒い毛で覆われています。アナウサギやノウサギに比べて、次のような特徴があります。

- ①頭や目が小さい
- ②耳や四肢が短い
- ③爪が強大

これらの特徴は、穴を掘って生活するアマミノクロウサギの生活スタイルに適したものです。また、



ロウサギの体のつくりは、原始的なウサギ類の特徴を残しているとされています。

夜が活動の時間帯です。昼間は斜面に掘った直径10～15cm、長さ1mほどの巣穴や樹洞、岩の隙間などで過ごし、夜になると林縁や林道脇に出てきて、ススキなどの草本類や木の根・樹皮などを食べます。

絶滅の危機にあります。アマミノクロウサギは国の特別天然記念物に指定されて保護されていますが、マングースや野犬・野猫に噛み殺される被害があったり、森林伐採や林道建設などによって生息環境が破壊されたりするなどその状況は深刻です。現在の生息数は2000～6000匹と推定されます。

マングースの駆除事業など保護活動が続いていますが、さらなる保護が必要でしょう。

## 鹿児島の昆虫⑫ いつの間にかいなくなったタガメ

昆虫担当 中峯 浩司

タガメの名は、田んぼにいる亀の様な形をした虫と言う意味でつけられました。水生昆虫としては最大で、広くはカメムシと同じなかまになります。

国内では本州から沖縄に分布し、戦前は県内でも各地で普通に見られたようです。当博物館には1927年に鹿児島市荒田で採集された標本が3つありますが、当時は普通種だったことから他に記録は残っておらず、詳しいことは分かりません。タガメはいつの間にかいなくなった身近な昆虫の1つなのです。

近年の採集記録としては、北薩では1980年代に鶴田ダムや藺牟田池、旧薩摩町の記録があり、1994年には大口市での記録もあります。大隅では1979年～1980年に串良町、大崎町、高山町で採集されています。その他、1980年代に日吉町で灯火に飛来した例や、1999年に屋久島で採集された例がありますが、生息の有無については不明です。

最近では、さつま町や大口市、湧水町辺りで採集された例があり、私自身もさつま町の2か所のため池で、2005年に幼虫と成虫を1匹ずつ捕獲したことがあります。

本種の生息環境は、水草の生えるため池や流れのゆるやかな水路、水田などです。幼虫・成虫共に肉食性で、水生昆虫や魚、オタマジヤクシなどを大きく発達した前足で捕らえ、体液を吸います。



幼虫から成虫になるまで大量のえさを食べるため、えさが豊富であることはもちろんですが、産卵のための抽水植物や杭などがあることも生息環境としては重要です。